

2011 年度 国際交流助成（海外渡航）

ハワイ East West Center 主催

The Asia Pacific Leadership Program (APLP) 研究報告

鹿角 契

国立国際医療研究センター

The Asia Pacific Leadership Program (APLP) は、米国の東西センター (East-West Center) が主催する 9 カ月間の大学院レベルの留学プログラムで、過去 10 年にわたりアジア太平洋地域のリーダーを輩出しているものである。この度、中山科学振興財団の研究助成を得て 2011 年度の APLP プログラムに参加させて頂いた。

1. Asia Pacific Leadership Program (APLP) とは何か？

APLP はビジョンとしてアジア・太平洋地域における安全と繁栄を掲げている。APLP は米国ハワイの East West Center におけるプログラムであり、East West Center は元々、アメリカとアジア・太平洋地域を結ぶシンクタンクとして、ハワイ大学内に設立された。

APLP 参加者は、過去・現在・未来における、アジア・太平洋地域の諸問題を深く理解し、またプログラム参加後、リーダーシップを発揮しこの地域の諸問題解決にあたることを求められる。

参加者としては毎年約 40 名が選出され、私が参加した年度は 42 名の参加者であった。参加の条件として、5 年以上の実務経験を有することが挙げられ、高いリーダーシップ能力を発揮した経験あるいは発揮しうるポテンシャルを有することも必須となる。

これまでの APLP 参加者の出身国は、53 以上にのぼり、またバックグラウンドも多岐に渡る（例：科学、ビジネス、開発、政治、政府関係、医学、芸術、財政、など）。また、年齢も 20 代半ばから 40 代半ばまでと、幅広い年齢層の参加者からなっている。平均として 30 代前半のようである。

2. APLP の内容

First semester と Second semester に分かれており、First Semester は East West Center におけるインテンシブなコースワーク中心、Second Semester はそれぞれの興味に合ったプログラム・研究を設定できるようになっている。

First semester では、アジア太平洋地域が直面している課題、リーダーシップ能力をどのように育成するか、と言った内容に関して焦点がおかれた。実際の参加者同士でのディスカッション、ワークショップは勿論のこと、課外活動・ボランティア活動、また専門家を招いて

のセミナーなど、様々な視点からアジア太平洋地域における諸問題の把握・解決策を、参加者が能動的に考え導き出すプログラムとなっており、またそれらの内容を実際にレポートとして提出し、他の参加者の前でプレゼンテーションを行い、客観的かつ批評的にお互いを評価する、というシステムになっていた。私自身も、自分の専門とは異なった視点からの批評は大変役に立ち、また、文化が異なるところも考え方・視点が異なるのかと思うことが多々あり、非常に有意義なプログラムであったと感じる。

APLP の特徴として、個人それぞれの専門・興味に合わせて、比較的自由な研究・調査・課外活動を行なうことが出来るプログラムである、ということがあげられる。私自身、医学及び公衆衛生に関する専門を、是非プログラム中に生かしたいと考えており、調査を行なった。

その一つが Kokua Kalihi Valley (KKV) クリニックでの調査である。ハワイは、多人種・多文化からなる地域であり、人種・社会経済的地位による健康格差が大きな問題となっている。特に、ネイティブハワイアンや、アジア太平洋諸島からの移民における健康問題が顕著であり、私はハワイでの健康格差問題に関して非常に興味を持っていた。KKV は 1972 年に、Kalihi Valley という、アジア・太平洋諸島からの移民が大部分を占める貧困地域に設立され、それまでまともな医療を受けることが出来なかった人々に、無償・あるいは低価格で医療を施してきた。私自身、KKV を何度も訪れボランティア活動などにも参加させて頂いたのだが、KKV クリニックに特徴的なのが、医療・言語サポート（移民の多くは英語を話すことができないため）のみならず、患者やスタッフが如何に地域と一体となることができるかということに重点を置いている点である。例えば、クリニックの近くには広大な庭があり、そこで収穫される野菜や香辛料は患者・スタッフ・地域住民が共有する。また、印象的であったのは、ボランティア活動の際に、参加者一人ひとりが自己紹介の際に、「自分とつながっている家族・先祖」のことを 1 フレーズで話すという習慣があり、長い時間・歴史の中で自分と言う人間がどのように人・地域・自然と関わってきたかという意識をもつ、ということであった。人間の健康というのは、病気を治すことだけではなく、体・精神が健全であり、また地域社会との繋がりを実感でき、支えあうことができる人々の存在があるという、言葉にすると当然ではあるが中々実際の形として見えにくいものを、KKV クリニックは提示しているように考えられる。

また、ハワイ州保健局の Director と共同で、救急医療従事者に対するカリキュラムの作成、アルコール関連事故の調査、また、自転車走行専用道路を設けることによる影響、に関する研究を予定し、KKV クリニックにおいては高齢者プログラムの費用対効果に関する研究を予定していたが、不幸にも自分自身が交通事故に巻き込まれてしまい、これらの研究は完成することは出来なかった。

謝辞

今回の Asia Pacific Leadership Program 参加は中山科学振興財団の研究助成を得て行なわれました。支援に対し、心より感謝申し上げます。また、プログラムに関し多大な協力をしてくださった、East West Center の Mr. Scott MacLeod、Mr. Nick Barker、Ms. Nina Dutra、Ms. Christina Monroe、国立国際医療研究センター木村昭夫先生、東京大学 Mr. Christopher Holmes にも合わせて感謝申し上げます。